

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

英語 八潮市立潮止中学校

実施日 指導案検討 令和7年11月11日(火)
 授業研究会 令和8年2月4日(水)
 訪問者 指導主事 安達 一樹

指導案検討会

● 単元名

Unit 7 The New Year in Japan
(第1学年)

● 本時の目標

- ・ 冬休みの思い出について、相手に興味をもってもらえるように、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある即興の英語で伝え合うことができる。

【 授業者の思い・意図 】

- ① 今までに学習してきた言語材料や様々な表現、教科書の本文などを繰り返し活用するための言語活動を確保することで、生徒の英語による表現の幅を広げる。
- ② 生徒の表現力を高めるために、内容面や言語面、音声面等、教師が意図をもって視点を示し、生徒間によるフィードバックを充実させ、生徒の変容を促す。

■ 参会者の声

・ 単元計画の重要性を学びました。単元の目標から逆算した授業設計、そして単元のゴールを達成できるように、言語活動を充実させることなど、自身の実践に生かしていきます。[指導案検討会：中学校教諭]
 ・ 小学校で指導しているため、中学校の授業は新鮮かつ、レベルの高さに驚きました。今回の授業を参観して、生徒の学び合いが有効だったのは、オブザーバー（評価者）役の生徒が評価の重点項目に沿ってフィードバックしていたからだと感じました。これは日々の積み重ねや生徒間のやり取りを見る視点がはっきりしていたからだと思います。本日はたくさん勉強になりました。 [授業研究会・小学校教諭]

授業デザイン改善のPOINT

■ 言語活動で扱う題材の工夫

- ・ コミュニケーションを行う「目的や場面、状況など」を明確にした言語活動を設定した。生徒は、相手意識を踏まえ、目的等に応じて、伝える内容やその表現を繰り返し思考・判断・表現しながら、発話（冬休みの出来事や感想など）の質を向上させることができた。
- ・ 言語活動の題材を生徒の日常生活や日本の伝統文化と関連付けることで、生徒の「英語で伝えたい」という意欲を高めるとともに、生徒が自分事として本活動の目的等を意識して、主体的に取り組むことができた。

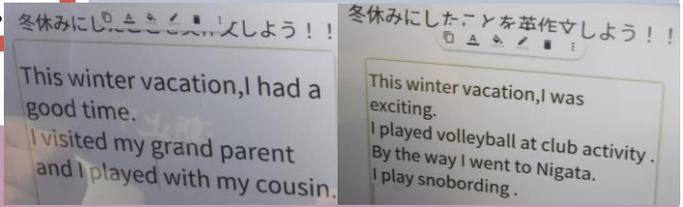
■ 「言語活動」と「指導・フィードバック」の往還

- ・ 本校の取組「伝説(伝える・説明する)タイム」を通して、「言語活動」と「教師による中間指導、生徒間による良い点や改善点のフィードバック」を何度も行い、生徒は学びや気づきを自身の活動に生かすことができた。

授業研究会

● 生徒の変容

- ◎ 特に「話すこと [やり取り]」における言語活動では、既習の表現を用いて即興で英会話ができるようになった。また、自分の意見を相手に伝えるように工夫して伝達しようしたり、相手からの意見を踏まえて自分の考えを再構築し深めたりする姿が見られるようになってきた。
- ◎ 仲間の考えなどを聴いて良い点や改善点に気づき、共有し合い、自分自身の学習に生かすことができるようになった。
- ◎ 間違いを恐れず、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとしたり、「話すこと」から「書くこと」へと領域間の統合を行うことで、まとまりのある英文を書こうとしたりする意欲が高まってきた。



■ 授業者の声

- 「本取組を通して学んだこと」について
- ・ 指導案を検討し、共に考えていただいた先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。自分自身が気付かなかった視点をもつことができ、これからの授業づくりを考える大きなきっかけとなったと思います。
- ・ 今後は、教師が生徒の学びを見取る際に、次の3点について生徒自身が気づき、主体的に学習に取り組めるよう指導していきます。①学習が目標に向かって進んでいるかを振り返ること、②既習事項を活用しながら英語で表現できるようにすること、③仲間のよさを自分の学びに生かすこと。